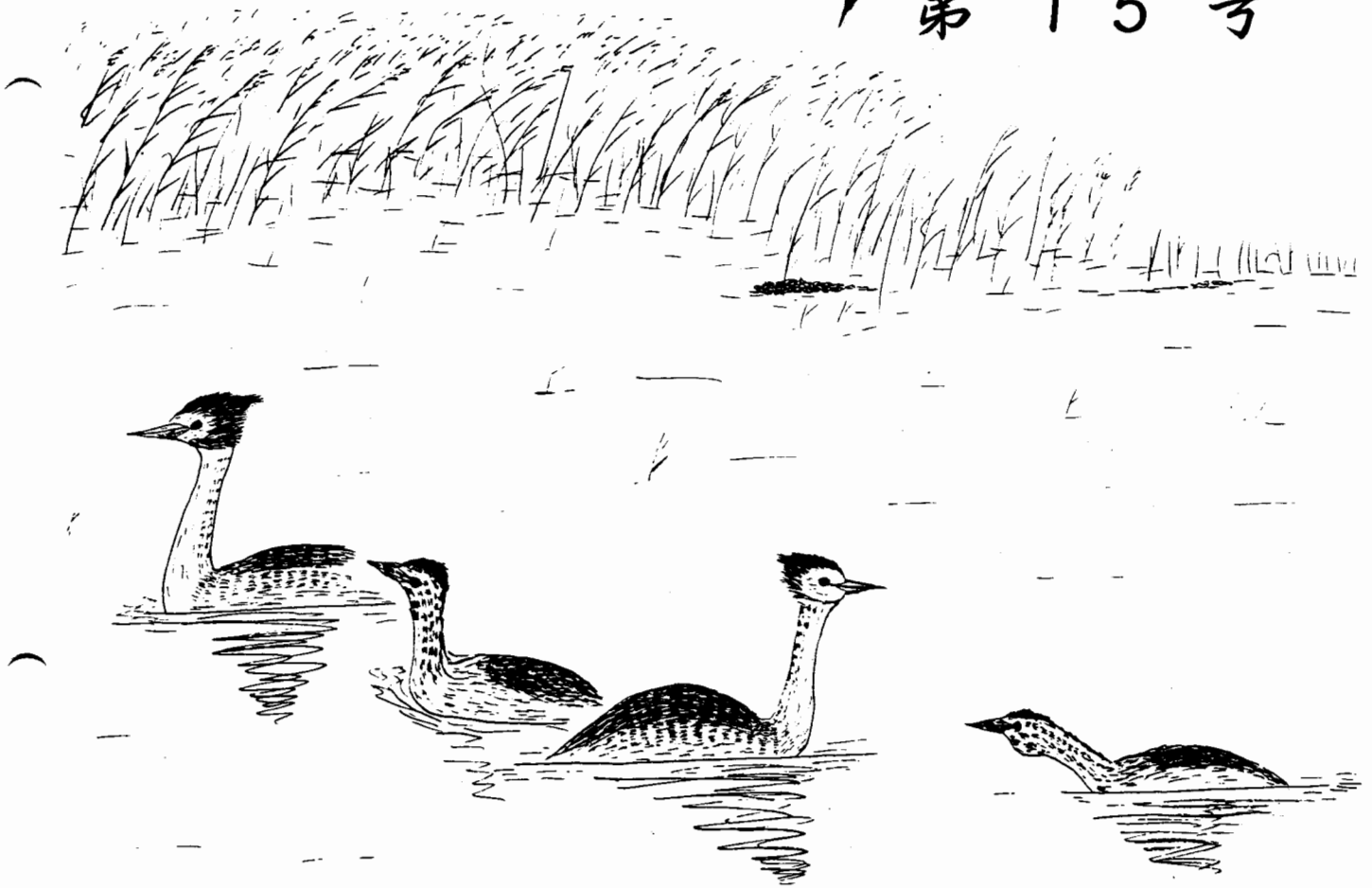


いさご

第 1 5 号



H8-9-15 ~~カ~~
長良川 カムリカイツブリ

1996年11月

日本野鳥の会三重県支部

初めて見ました、タカ柱

矢田 栄史 (菟野町)

日本野鳥の会に入って丸3年。ぜひ一度は見てみたいと思っていたサシバの渡りを見て来ました。

10月6日(日)、伊勢市のやすらぎ公園のタカ渡り探鳥会に参加しました。

当日は秋晴れで暑いぐらいの気象条件。津の最高気温は23.7℃ですが体感的にはもっとあったようです。早い人は早朝6時から観察されていたようですが、我々が到着した8時半ごろまでは渡りは観察されていないとのこと。

9時ごろから、鼓ヶ岳の少し上空とか朝熊山の北あたりでタカ柱が見られ始めました。

10羽程のサシバがどンドンと高度を上げていき、かなり高くまで上がったものからスーッと直線的に滑空しはじめます。やすらぎ公園の真上を飛ぶものもあり、感動的なシーンが続きます。成鳥と幼鳥の違いもわかりました。

私にとってタカはあこがれの鳥です。文字どおり空の高いところをゆうゆうと飛ぶ姿や秋の青空をバックにノスリがぐんぐんと上昇して行くところは見たことがあります。いつも見られる訳ではなく、見ることができればラッキーぐらいに思っていました。

この日は、サシバ多数、そしてミサゴ、ハチクマ、トビのワシタカ類、そしてすぐ近くでずっと高鳴きをしていたモズ等、初めて参加した南勢地区の探鳥会をたんのうできました。

疑問点もあります。

- ・サシバにとって渡りは苦痛か、さほどでもないか。(幼鳥の成功する割合等)
- ・一日にどれぐらいの距離を飛ぶのか。また、洋上(沖縄以南)へ出てからはねぐらやエサはどうするか。
- ・他の多くのワシタカと違って、サシバは小鳥類はほとんどエサにしないようだが、それでも小鳥はサシバを警戒するか。

今サシバはどこでどういう生活をしていることでしょうか。又来春元気な姿を見たいものです。

当日の参加者のみなさんありがとうございました。



目次

今号の表紙 絵・文：高 和義

会員のページ	-----	2~5
ワポイント野鳥保護③	-----	6
探鳥地マップ⑦ 鈴鹿川河口	-----	7~8
支部交流会のお知らせ	-----	9
野鳥情報	-----	10~11
探鳥会報告	-----	12~13
事務局から	-----	14

カンムリカイツブリ

Podiceps cristatus

9月、長良川でカンムリカイツブリの珍しい繁殖が見れると言うことで、多度峡探鳥会の帰りに皆で見に行った。初めて見る雛は、嘴がオレンジ・黒・ピンクの斑、首に黒い縦斑、額に赤いポイントがあり、冠羽は生えたばかりの様に思えた。

この絵は弟雛が迷子になりかけ、10分位遅れて本流から戻りやっと家族に会えたところ です。

はるかなる浮島沼

平井正志 (安濃町)

浮島沼は静岡県の富士市と沼津市にまたがる東西約5km南北約1.5kmの広大な湿地帯である。今では圃場整備事業により、そのほとんどが水田と工場になっているが、以前は沼と広大な湿地と水はけの悪い水田であった。新幹線も国道も地盤の悪いこの地帯を避けて山側や海側を通っている。どれだけの時間をこの浮島ですごしたのだろう。

浮島沼を初めて訪れたのはたしか夏の終わりごろであった。ツーリングの帰りに国道バイパスからすこしはずれて水路のそばでひと休みした。人の気配に飛び立った鳥はササゴイのように思われた。しかしそのころは鳥を見始めたばかりでササゴイであるという確信は持てなかった。もう一度見てみたいと思った。それ以降次第にこの湿地に興味を持ち、通うようになった。ハイロチュウヒのメスを見たのもやはり、浮島に通い始めた最初のころであった。その時も何かの帰りに立ち寄り、偶然出くわした。国道バイパスは少し高くなっているので湿原をよく見晴らせる。彼女が夕日を浴び、時々白い腰を見せながら、両翼を軽く持ち上げて、葦原の上を低く滑るように飛ぶ様がよく見えた。滑空とはばたきを繰り返しながら、しだいに遠ざかり、遠くの風景に紛れて、双眼鏡でも存在が分からなくなるまで追いつけた。まだチュウヒすらあまり見たことのない時代だったのでその印象は鮮明だった。

浮島沼といってもそのころ既に干拓が進み、沼はなくなっていた。しかし中央部は葦の茂る湿地が続き、水田は一部にしかなかった。道はいくつか走っていたが、道はあっても水田のあぜをすこし広くした程度のものであり、その両側はずぶずぶの泥田である。泥田と道の区別が判然としないのが浮島の道であった。まっすぐ走っていくと道がとぎれてその先が田になっていたり、しだいに細くなって車で通過できない道も多かった。そんな道にうっかり入り込むとUターンは無論できないし、バックするにも車の幅ぎりぎりまで四苦八苦することもしばしばであった。わだちがあるので大丈夫であろうと入ったが、よく見るとテラーの跡であり、脱出できなくなったこともあった。

浮島の夏は見渡す限りの緑、葦原とヨシキリである。すこし土盛りをしてある国道バイパスからみると葦原

は所々にヤナギの木を交え、水田を織り混ぜながら延々と続いている。初夏、その葦原の一部に野生のハナショウブが咲く。緑一色の葦の中のポツポツと咲く紫の花はひととき鮮やかに映る。初めて見たとき、それが野生であることを疑った。このハナショウブの咲いていたのは湿地のほんの一部であった。それも今ではもうなくなっているかも知れない。昔はもっと広範囲に自生していたのであろう。

ギギッ、ギョギョッギョギョッ、オオヨシキリは夏の葦原の主である。見晴らしの良い葦の茎にとまり、頭の羽毛を逆立て、あらんかぎりの口をあげ、叫び続ける。そのくせ少し近寄るとそこそこ葦のしげみに逃げ込むのであるが。臆病なやつはへっぴりごしで葦の間にかくれて鳴いている。浮島にはもう一種コヨシキリもいる。やや金属性の鳴き声、はつきりとした眉斑。オオヨシキリにくらべやや女性的な感じがする。

浮島には放置されている水田が多かった。水田というにはあまりに条件が悪く、使われていないのであろう。夏にはコナギやオモダカ、イの類が繁殖し、水鳥達の格好の繁殖地となる。田植の終わったころ、長靴をはいて放置された水田をあるきまわり、バンの巣を捜した。バンは水面から少し高くなった草の株の上に巣をつくり、卵を生む。せつかく見つけた巣も多くは道から離れていて、写真撮影に使えるものはほとんどなかった。繁殖には成功しなかったが、クイナの巣を見つけたことこともあった。

夏の浮島には川漁師ササゴイが来る。湿原の中央部を流れる須津川で魚を捕る。彼は姿勢を低くしてぬき足さし足水際から浅瀬に入っていく。いかんせん他のサギと違って短足なのであまり深い所には入り込めない。浅瀬でじっと魚の近づくのをまつ。捕まえる獲物はたいていオイカワである。それもかなり大きいものが多い。水の中を走り回って小魚を捕るコサギとは対称的である。魚を捕まえた彼は向きをかえ、岸に上がり魚が逃げられない場所で挟みかえて飲み込む。あのが一杯に膨らむのを見る。ササゴイはどこか近くで繁殖しているようだ。夏のおわりには幼鳥をよく見かけた。

秋、稲刈りの時は人が多く入り、鳥を見るどころで

はない。しかし稲刈りが終わり、稲がはぎにかけられるとまた鳥が見られるようになる。ノビタキははぎの杭の上にとまって、虫を捜す。夏にはここにいないので富士山の山麓かどこかの繁殖地から渡りの途中なのであろう。しばらく浮島に滞在してまたいなくなる。キジバトもこの時期やたらと目だつようになる。電線やヤナギの枝に三々五々とまっている。これも渡りの途中であろうが確認のしようがない。アマサギとチュウサギは刈入れ後の田を歩きまわってバツタやカエルをさがす。このころのチュウサギは幼鳥が多いのか警戒心が少ない。車の中でカメラをかまえていると虫を捜しながらごく近くまでよってくる。遠くからは優雅に見えるこのサギも近くで見ると動物食のせいであろうかきわめて鋭い顔つきをしている。

秋、台風が通過するとあたりの景色は一変する。田と湿地の多くは水没し、秋晴れの空と愛鷹山を映した広々とした水面が現れる。むろんあちこちで道も冠水する。おそらく干拓工事前の浮島沼もこうであったろう。

葦原の葦が刈り取られて巨大なインディアンのテントのようにあちこちにまとめられ、タゲリが姿をみせるようになると浮島の最も魅力的な季節冬がやって来る。



浮島の冬の朝はすばらしい、しばしばコミミズクを求めて早朝の浮島に出かけた。前夜から出かけ、車の中で夜を明かしたことも何度もある。この浮島では雪はめったに降らないが、あたりは霜で一面真っ白になる。富士山の頂は日の出の前ほんの一瞬だけ赤く染まる。染まり始めた時が最も美しく、1分もたたないうちに色は薄まってゆく。猛禽の多い浮島でもコミミズ

クに出会うのはかなりまれであった。はじめて見たときはなんと目付きのわるい鳥だろうと思った。チョウゲンボウにちょっかいをかけられ、体をいっぱい膨らませて威嚇しているのを見たのも浮島であった。早朝には飛び回っていることもあるのだが、遠くからでも独特のぎこちない翼の動きですぐ識別できる。

チョウゲンボウは浮島で最も多い猛禽のひとつである。長い翼、長い尾それにしなやかな動き、時々地上で餌をあさるカシラダカの群に上空から飛び込んでみごとな狩を見せてくれる。捕まえた獲物はいなむらの上で長い時間をかけて食べられる。たとえカラスなどのじゃまが入っても獲物は足にしっかりと持ったまま逃げ、場所をかえて食べる。食事跡を見ると羽毛とくちばししか残っていない。脚も、頭もすべて飲み込んでしまうようだ。実際ペレットから脚が出てくる。食事が終わると、じゃまが入らないかぎり、同じ場所にしばらくとどまって羽をつくろう。

コチョウゲンボウもしばしば見られた。この鳥の飛びかたはチョウゲンボウより鋭角的ですばやい。双眼鏡で追いかけるのも容易ではない。狩の仕方もやや違うようだ。チョウゲンボウのように上空から襲いかかるのを見たことは無い。地上すれすれを猛スピードで飛びまわり、驚いて舞い上がる小鳥を脚で引っかける。田の中で餌をとっている小鳥にしてみればあぜのむこうから急に敵が現れることになる。メスはきわめて地味な羽色をしている。ちょっとした盛土の上にとまると土と見分けがつかない。気が付かずには寄り、飛び立ってからはじめてこの鳥に気づくことがよくある。オスは青灰色の翼と背、赤土色の縦斑入りの下面の魅力的な配色である。くちばしは小さく、あごの白い羽毛はまるで礼装用の白いネクタイをしているように見える。1981年から82年の冬はコチョウゲンボウの当り年であった。オスが西の端の田にいて、毎日の巡回のルートはほぼ決っていた。気に入った杭がいくつかあってそのうちのひとつにとまってあたりを見まわす。このルートが判明してからは確実にコチョウゲンボウに会うことができた。その東にはメスが少なくとも2羽越冬していた。コチョウゲンボウの観察は浮島の最大の魅力であった。

チュウヒは浮島に来れば必ず見られる鳥のひとつであった。彼は車の入れない葦原をすみかとし、日に何度となく葦原の上を低く飛びまわり、再び葦原の中に舞い降りる。耕地に出て来るのは稀で、間近に見ることはほとんどなかった。電柱のほとんどない浮島ではノスリもよく田の杭にとまり、ノネズミをねらっていた。

年によっては愛鷹山から降りてきたらしいハイタカを見ることがあったがごく稀であった。

田の畦の緑がなんとなく気になりだすころ、部落総出で野焼きが行われる。あぜや土手の枯草に火を放す。ヒバリがいつからか空で鳴いているのに気づく。それでも猛禽たちの中にはかなり遅くまで残っているものもいる。チョウゲンボウの番は空高く舞い上がり、急降下と急上昇を繰り返す雄大なディスプレイを見せてくれる。どこにこのようなエネルギーが蓄えられていたのであろう。捕食のために全精力を注がざるをえなかった冬、忍耐と飢えの冬を無事乗り切った喜びを表しているのだろうか？連れだって繁殖地へもどるの間もないのであろう。湿原の柳の枝がわずかに青みを帯びてくる。ツグミはまだのこっているものの浮島の季節は終わりを告げようとしている。

浮島沼も干拓工事が進み、葦の湿原はどんどん減っていった。田の縁を巡る小川はコンクリートのU字溝に変わってしまった。整備された土地にはどこからともなく土砂が運ばれ、盛り上げられて工場に変わる。猛禽達のすみかは年々狭められていった。静岡を去ってからはや10年になろうとしている。浮島沼はいまどうなっているだろうか。長靴をはいてオオヨシキリの巣をさがしたあの葦原ももうなくなっているかもしれない。コチョウゲンボウがとまったあの杭はまだあるだろうか？新幹線でそこを通るとき、どうしても気になって見る。年々家や工場が立っていくようだ。あの猛禽の魅力にあふれた浮島はもはやどこにも存在しないのであろう。ちょうど人生の魅力にあふれた青春は二度と帰らないように。

大杉谷探鳥会

稲葉千春

6月1日～2日、大杉谷探鳥会に初めて参加した。海山町から入った林道は曲がりくねった石ころ道、3時間余りかかって栗谷小屋に着いたのは4時過ぎ、ミソサザイ、クロツグミのデュエットの大歓迎を受ける。早速近くの栗谷滝に向かう、途中の道にがさがさと音がして白鼻心が現れた。沢を声もなく移るのはカケス、木立の繁みからはシジュウカラやウグイス、コガラなどの声が入り混って聞こえてくる。

滝の辺りには折々キツツキのドラミングがひびいている。谷を隔てた枯れ木にはオオルリがこちらを向いて囀っている。山小屋の辺りには日暮れを惜しむかの

ようにコマドリがひたぶるに啼きつづけている。

翌朝は7時出発。予定の林道が崩落の為、今は廃道となっている旧道を通って大台辻まで歩いた。石楠花は今一つだったがブナや水楢の木洩日が揺れる林には苔を被った岩や石が美しい光景を映し出していた。木々の繁りに鳥の姿は見え難かったが、ツツドリ、ホトトギス、コガラなどなど28種類の鳴き声を聞き分けて会員の方々が教えて下さった。初めての私にはやっとツツドリ、ホトトギス、コガラの三色の声を覚えて大満足の楽しい探鳥会でした。

ヤマショウビン観察？

川田八郎（度会郡大宮町）

朝7時頃、毎朝の犬の散歩に出かける。時々渡りの時期にノビタキなどがクイの上にとまっていたりするので双眼鏡を持って行こうと思いつつ、今朝もまた双眼鏡を持たないで出かけたが、川辺のクリの木に「キョ キョ キョ」と警戒の声が聞かれる。声からしてアオゲラのように思え、近づくと30mぐらいのところまで飛び去ってしまったが、背の青とわき腹の橙黄色の美しい姿は図鑑で見たヤマショウビンのようである。100mぐらい飛んで田んぼの辺にある樹木の中に入って、またキョキョと鳴いているのでまた近づいたら、頭の上を滑空して谷の方に飛び去ったが、その時腹面の橙

黄色の美しいのが目に入った。

今思うとやはり双眼鏡を持っていれば、そんなに近づかなくてもよく観察できて、くちばしの赤や頭の黒色や首の白が見られたと思うのだが、肉眼で飛んでいるのを見たので背の青と腹面の橙黄色しか見られず残念に思えてならない。

図鑑では「キョロツ」とか「ツイー」とかの囀りが書かれていて、キョキョキョの声は書いていないので、ヤマショウビンかどうか疑問も残るが、飛び去るあの美しい姿はまさしくヤマショウビンと思えた。（9月15日）

傷病鳥の救護・その2

前号の続きです。傷病鳥救護の具体的な方法について説明してみたいと思います。

1 観察

傷病鳥を発見したらまずどんな様子かを調べます。初めはさわらずに、翼や脚に骨折がないかを見ます。翼を普通のようにたたまずだらりと垂らしている時や、左右のたたみ方が違う時は骨折していると見て間違いないでしょう。脚を骨折している時は、片方の脚で体を支えもう片方を縮めていたり、あるいはぶらりと垂らしていることが多いようです。骨折の場合は素人の手には負えません。すぐに専門家の手に委ねましょう。

次に手にとって調べますが、鳥の保持には注意が必要です。小鳥の場合、上の方から手のひらでおおい、頭が中指と人差し指の間から出るようにします。翼はたたんだままで他の指で押さえます。あたりまえですが強く握らないで下さい。カラスやサギなどの中・大型の鳥の場合は、革製などの丈夫な手袋をつけ、両手で後上方からたたんだ翼と一緒に抱きます。くちばしで目などをつつかれないよう気を付けて下さい。猛禽類の場合は、くちばしだけでなく爪も大変危険ですので特に注意が必要です。布などで目隠しをするとおとなしくなります。どの鳥にも言えることですが、翼や脚を持ってばたつかせたり尾羽根をつかんだりしてはいけません。骨折したり尾羽根がぬけることがあるからです。

さて、以上のようにして鳥を保持したら、次のポイントをよく観察します。

- ・出血していないか。血痕はないか。(羽毛が乱れているなど様子が普通でないところは特によく見ます)
- ・肛門付近がフンで汚れていないか。
- ・体がぬれていないか。
- ・釣針を飲み込んでいないか。
- ・トリモチがついていないか。

2 簡単な治療

①外傷がないとき

目立った外傷がなく、肛門部もあまり汚れていないようでしたら、次のようにして休ませます。

体が濡れている時は、ガーゼなどで静かにふきとります。汚れている時も洗ったりせず、温かいおしぼり

でふきとり、ヘアードライヤーで乾かしますが、熱すぎないように注意して下さい。

次に温度です。寒さは鳥の大敵です。30℃くらいが適温ですので使い捨てカイロを箱の中に入れるなどして保温して下さい。夏は涼しくしてあげましょう。

鳥を入れるのは段ボール箱で十分ですが、大きすぎるのはばたついたりしてよくありません。通気用の小さな穴を開け、中には新聞紙をリボン状に切ったものをつめてください。毛糸など繊維状のものは引っ掛けるので入れないでください。

箱は静かな場所に置いてそっとしてあげましょう。

②外傷のあるとき

外傷の場合は化膿しないように消毒をします。傷の周辺の羽毛をハサミで切り取り、家庭用の水溶性の消毒薬(アクリノール液、マキロンなど)をつけてから外傷薬を塗ってください。1日1~2回、傷口にうす皮が張るまで続けます。

③肛門の汚れているとき

このような時は消化器系の病気が考えられます。市販の腹痛薬(新ワカマツ錠、ピオフィルミン止瀉薬など)を与えましょう。小鳥には錠剤を粉にして水と一緒に飲ませます。中型の鳥には半錠、大型の鳥には1錠をそのままくちばしの奥に入れ、スポイトで水を飲ませます。薬を与えた後は、くちばしをつまんでしばらく上を向かせ吐き出さないようにします。普通は1~2回で治るということです。

④トリモチの取り方

ベビーパウダーや米糠、あるいは灰をふりかけて少しずつ丸めながら取り除きます。有機溶剤や合成洗剤を使ってはいけません。

釣針を飲み込んでいる時は専門家に任せましょう。

3 応急の給餌

弱った鳥には、とりあえず牛乳に蜂蜜を溶かして30~40℃に温めたものを飲ませます。砂糖湯でもかまいませんしビタミン剤を混ぜるのも効果的です。小鳥なら頭を横に向けて、指でくちばしの根元につけて与えます。大きい鳥にはスポイトを使います。無理強いないよう注意して下さい。

(この項さらに次号に続きます)

参考図書:「野鳥のためのりりーふガイド」

(大阪府農林水産部)

探鳥地マップ (7)

鈴鹿川河口

所在地 四日市市磯津～
三重郡桶町南五味塚
時期 通年



禁複製 (財) 日本野鳥の会三重県支部

鈴鹿川河口

1/25,000地形図：四日市西部 鈴鹿
四日市東部 南五味塚

鈴鹿川河口は本川・派川両河口に分れており、その間にある吉崎海岸、養魚池、周辺の田んぼなど、それぞれ特徴ある探鳥場所からなっています。この辺りはコンビナートのすぐ隣にありながらも、四季おりおり変化する自然の中で、入れ替わる主役たちをゆっくりと見ることができます。特に吉崎海岸は残り少ない自然海岸で、繁殖期にはシロチドリ、コアジサシが子育てをしています。

【今までに観察された主な鳥】

カイツブリ	ハジロカイツブリ	カンムリカイツブリ	カワウ	ゴイサギ	アマサギ
ダイサギ	チュウサギ	コサギ	アオサギ	マガモ	カルガモ
コガモ	ヨシガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ
ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	ウミアイサ	キジ	バン
オオバン	タマシギ	コチドリ	シロチドリ	メダイチドリ	ムナグロ
ダイゼン	ケリ	タゲリ	キョウジョシギ	トウネン	ヒバリシギ
ウズラシギ	ハマシギ	ミユビシギ	アオアシシギ	タカブシギ	キアシシギ
イソシギ	ホウロクシギ	チュウシャクシギ	タシギ	ユリカモメ	セグロカモメ
カモメ	オオセグロカモメ	ウミネコ	アジサシ	コアジサシ	キジバト
カワセミ	ヒバリ	ツバメ	キセキレイ	ハクセキレイ	セグロセキレイ
ヒヨドリ	モズ	ジョウビタキ	イソヒヨドリ	ツグミ	ウグイス
オオヨシキリ	セッカ	ツリスガラ	メジロ	ホオジロ	アオジ
オオジュリン	カワラヒワ	スズメ	ムクドリ	ハシボソガラス	ハシブトガラス

☆交通：鈴鹿川本川河口 近鉄四日市駅及び塩浜駅より、三交バス磯津行き、磯津東町下車。

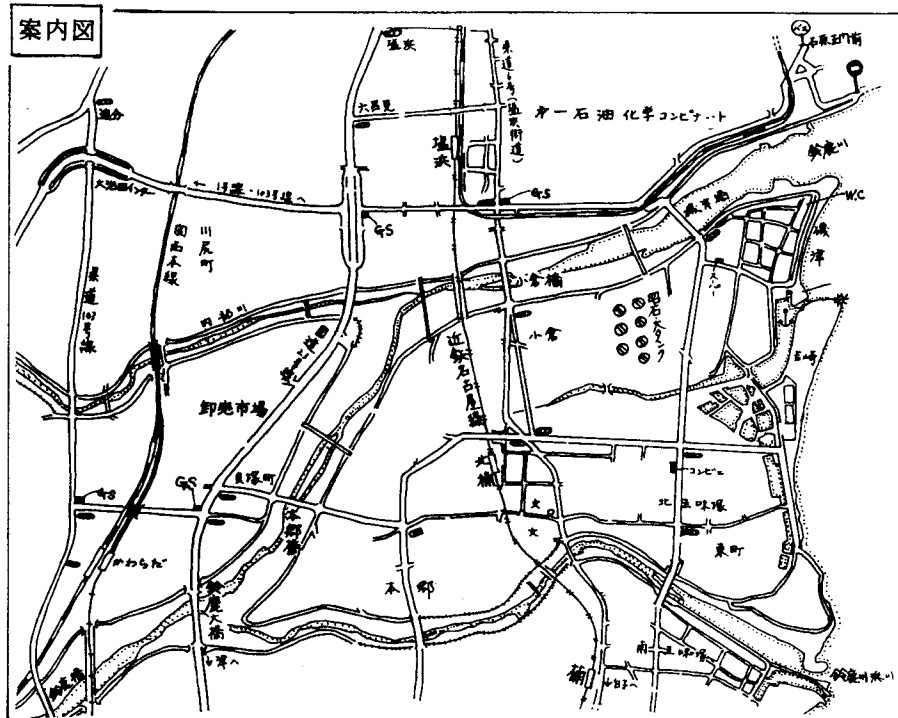
鈴鹿川派川河口 近鉄楠駅又は北楠駅より、ともに徒歩約20分。

☆駐車場としてはありませんが、両河口、海岸堤防、どこにでも適当にとめられます。

☆食事及び喫茶は駅周辺か塩浜街道沿いにありますが、いい季節には堤防や浜辺で、お弁当などいかがですか。

☆トイレは鈴鹿川本川河口、右岸先端を南に10m右。

☆両河口、海岸共に多くの人たちに色々利用されています。休日には鳥が少なかったり居なかったりすることもあります、そんなときはもう一方の河口に回って下さい。



平成8年度支部交流会のお知らせ

今年もあと残りわずかとなり、慌ただしい毎日をお過ごしのことと思います。さて、冬鳥のシーズン真っ盛りの2月、会員の皆さんの親交とレクリエーションを兼ねて交流会を開催する事になりましたのでお知らせいたします。今回は今までとは趣向を変えてわいわいお喋りしながらのバードクラフト（バードカービング、バードモビールなど）や、冬の五十鈴川でのバードウォッチングを楽しんでいただく予定です。皆さん、ふるってご参加ください。

期 日 平成9年2月9日（日）10:00～18:00
 場 所 伊勢市宇治公民館（駐車場あり。地図参照ください。）
 内 容 クラフト製作、探鳥会、ビデオ上映など。
 参加費 交流会参加費200円（茶菓代）。クラフト材料費別（次項）
 昼 食 各自ご持参ください。
 申 込 平成9年1月末まで。クラフト製作希望者は次項をご覧下さい。

バードクラフト製作参加要項

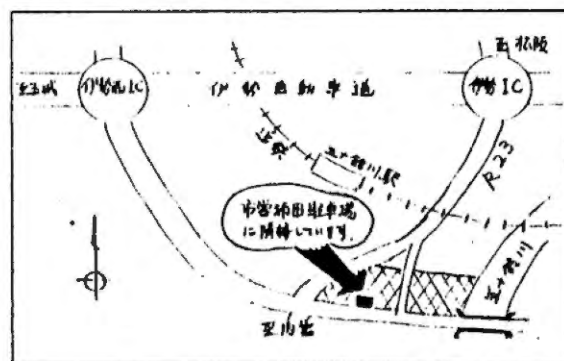
- 1, バードカービング（スズメ、シジュウカラなど）
 定員15人程度 参加費 2,000円
 ジェルトン材のキットを使用します。実物大の小鳥の置物です。
 切出しナイフ、及び彫刻刀のセット（学童用で可）をご持参ください。
- 2, バードモビール（カモメ、サギ類）
 定員15人程度 参加費 1,500円
 お部屋に吊せる木のインテリア。ひもを引くと優雅にはばたきます。
 糸のこをご持参ください。
- 3, キーホルダー、ペーパーウエイトなどの雑貨
 定員はありません。参加費 300円

※ 1と2については材料手配の都合上、12月末までにお申し込みください。参加費は当日徴収いたします。また、刃物を使用しますので、小学生は保護者の方の同伴が必要です。

タイムテーブル

10:00	バードクラフト	交流会	
11:00			
12:00			探鳥会
13:00			
14:00			
15:00			
16:00			
17:00			
18:00			

現地案内図



参加申し込み先:

小坂 里香

1996年8月～10月の野鳥観察記録

多田弘一（嬉野町）

筆者は、時間の許す限りフィールドに出る事をモットーにしているのので、野鳥達との色々な出会を体験する。そして、その観察記録を眠らせておくのは決して望ましい事ではないと常日頃思っている。観察記録を根気よく報告する事の蓄積は、自然保護を主張する際の説得力ある生きた資料となり得ると考えるからである。したがって、今夏と今秋の比較的重要と判断した記録を報告する事にした。比較的稀な観察例は識別に足る記録写真の撮れたもの及び種の識別に確信のある記録のみを記載し、不確実なものは全て除外した。

なお、シギ・チドリ類に関しては、後の機会に報告する予定なので省いた。

★ 越夏	ヨシガモ♀2	三雲町曾原	10/08	エゾビタキ1	松阪市伊勢寺町
★ 越夏	スズガモ♀1	三雲町五主	10/10	ヒヨドリ約500の群3	松阪市高須町
※ 越夏	コガモ1	三雲町曾原	10/10	メジロ2海岸草むら	松阪市高須町
越夏	ヒドリガモ♀1	三雲町五主	※10/10	オオヨシゴイ♀1	三雲町五主
★ 8/24	ハジロクロハラアジサシ1	三雲町五主	10/12	ミサゴ1初認	三雲町五主
9/05	ショウドウツバメ約120	松阪市高須町	10/12	スズガモ♂1初認	三雲町曾原
9/07	コガモ9初認	三雲町曾原	10/12	アトリ16の群	三雲町五主
9/08	コガモ8	松阪市高須町	10/13	ハジロカイツブリ1初認	松阪市高須町
9/11	コムドリ約40の群	香良洲町高砂	10/13	ミサゴ2	松阪市高須町
9/12	ツバメ大集団ねぐら終認	松阪市高須町	10/13	スズガモ♀3初認	松阪市高須町
9/12	マガモ6初認	松阪市高須町	10/13	キンクロハジロ♀5初認	松阪市高須町
9/14	シマアジ13初認	三雲町曾原	10/13	ヒバリ8空中さえずり	松阪市高須町
9/19	ホシハジロ♂1 ♀1初認	松阪市高須町	※10/15	コチョウゲンボウ♂1初認	三雲町星合
9/19	コガモ3潜水行動	松阪市高須町	※10/16	ヘラサギ若鳥1	三雲町喜多村新田
9/21	オオヨシキリ2終認	松阪市高須町	10/17	ジョウビタキ♂1初認	三雲町喜多村新田
9/22	オナガガモ2初認	松阪市高須町	10/17	ツグミ2初認	三雲町星合
9/27	ハシビロガモ1初認	三雲町五主	10/17	クイナ1初認	三雲町曾原
※ 9/27	ツルクイナ1	三雲町喜多村新田	10/17	ユリカモメ73初認	松阪市狹師町
9/29	ヒドリガモ2初認	三雲町曾原	10/18	アリスイ1初認	津市雲出島貫町
9/29	ヨシガモ5初認	三雲町曾原	10/18	ジョウビタキ♂1	津市雲出島貫町
10/01	オカヨシガモ2初認	三雲町五主	10/18	イソヒヨドリ♀1	津市雲出伊倉津町
10/01	カワセミ1窓ガラス衝突	嬉野町中川	10/18	アリスイ1	津市雲出伊倉津町
10/02	セグロカモメ幼鳥1	香良洲町高砂	10/18	ウミアイサ1初認	三雲町五主
10/02	チョウゲンボウ♀1初認	三雲町五主	10/19	ノビタキ3～5の群3	一志町高野
10/03	キンクロハジロ♂1初認	松阪市高須町	10/20	ジョウビタキ♀1初認	松阪市高須町
10/03	ヨシゴイ幼鳥1	松阪市松ヶ島町	10/21	ジョウビタキ♂1	嬉野町中川
※10/04	スズメ頭部白化個体1	香良洲町稲葉	10/21	アマサギ2終認	三雲町喜多村新田
10/05	チョウゲンボウ♂1初認	一志町庄村	※10/22	コチョウゲンボウ♂2鳴声	三雲町五主
10/05	チョウゲンボウ♀1	一志町庄村	10/24	ジョウビタキ♂5 ♀6	三雲町、香良洲町
10/05	チョウゲンボウ♀1	久居市新家町	10/24	マガモ♂7 ♀6潜水行動	三雲町星合
10/05	ノビタキ換羽中3	三雲町笠松	10/24	ハシビロガモ3潜水行動	香良洲町高砂
10/06	オナガガモ1潜水採餌	松阪市高須町	最後になりましたが、いつも貴重なご指導を戴く支部顧問橋本太郎先生と高橋松人副支部長に深謝します。		
10/07	オシドリ♂1換羽中	松阪市小阿坂町	★は、本部野鳥記録検討会にて公式記録と認定済み		
10/07	チョウゲンボウ♀1	三雲町星合	※は、同上に報告済みで検討中の種		
10/08	エゾビタキ3	松阪市岩内町			

初認情報

その1 矢田栄史さん(菰野町)

10月22日	ジョウビタキ	県民の森	
10月28日	アカゲラ	三滝川(菰野町)	※10月29日、11月6日にも見ました。
"	カシラダカ	"	
"	マヒワ	"	
"	アトリ	"	
11月8日	ツグミ	"	※直線的な飛びも何度か観察しました。

マヒワは11月6日にも150羽程の群がエサを食べているところを見ました。ススキとか、種類は不明ですが茶色く高さ1m程のサヤのある実をついばんでいます。

11月8日の雨の日午前11時には、6日とは少し離れた場所で採餌の様子。群で低空を飛んで場所を変えたりします。私のすぐ頭上を飛ぶケースも数回あり、又、地面に降りてエサをとっているのも何羽かありました。

その2 竹内 啓さん(松阪市)

10月25日	ヤツガシラ	多気郡多気町相可	※渡りの途中でしょうか?
10月29日	ルリビタキ♀	"	

その3 匿名さん(二見町)

9月 8日	ハシビロガモ	楠町吉崎	
"	コガモ	"	
"	オカヨシガモ	"	※この日は林淳子さん(伊勢市)と同行しました。
9月14日	コガモ24	伊勢市一色町	
10月10日	ジョウビタキ	伊勢市やすらぎ公園	※この日も林さんと一緒でした。
10月17日	アトリ(小群)	度会町獅子ヶ岳	
10月18日	コガモ	伊勢市勾玉池	
11月 7日	アオジ♀2	"	
11月12日	シロハラ	"	

写真展「木曾岬干拓の野鳥たち」

と き：11月26日～12月1日
ところ：NHK津ギャラリー

木曾岬探鳥会

と き：12月22日(日) 9:00～14:30
ところ：弥富野鳥園 9:00
※車でない人は送迎しますので、事前に申し込みの上
8:30に桑名駅に集合してください。
申し込み先：木村京子さん(電話)

○御齊峠の夜のバードリスニング（上野市高旗山）

- ・日 時：1996年8月3日（土）18:00～20:00 曇
- ・担 当：前澤昭彦
- ・参加者：7名 観察種：1種
ヨタカの声2ヶ所より。

○神社の森と野鳥（伊勢市外宮勾玉池）

- ・日 時：1996年8月10日（土）13:10～14:10 晴
- ・担 当：杉浦邦彦、吉居瑞穂、小坂理香
- ・参加者：13名 観察種：11種

○多度峡探鳥会（桑名郡多度町多度）

- ・日 時：1996年8月11日（日）9:00～12:00 晴
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：7名 観察種：13種

夏休みということで多度峡でも多くの家族連れで賑やかで結構なことですが、バーベキューの後のゴミ等をちゃんと片付けてもらいたいものです。それと、川底の石をかたっぱしにひっくり返すのだけはやめてもらいたいものです。

○愛宕川シギ・チドリ探鳥会（松阪市愛宕川、金剛川）

- ・日 時：1996年8月25日（日）10:00～12:00 曇
- ・担 当：谷本勢津雄、西村四郎
- ・参加者：22名 観察種：33種

○亀山1金探鳥会（亀山市椿世町）

- ・日 時：1996年9月6日（金）9:00～12:30 曇
- ・担 当：楢原 葵
- ・参加者：9名 観察種：25種

「モズの高啼きを聞く」テーマだった。高い所で2羽啼いていたが、声は高啼きとまでは言えなかった。まだ気温が高かったためか、ハシボソガラスもヒヨドリも口を開けた状態が多かった。

○鈴鹿川派川探鳥会（三重郡楠町南五味塚）

- ・日 時：1996年9月8日（日）10:00～12:00
曇時々晴
- ・担 当：高 和義、鹿島素子
- ・参加者：21名 観察種：26種

当日は堤防から移動せずにじっくりと観察した。我々が動かないでいると、鳥の方から次々に姿を現してきた。シギ・チドリは各種数羽程度であったが、それな

りの種類が見られて良かった。

コアオアシシギとアオアシシギが並んでいたの、その大きさの違いがよくわかった。（高）

[参加者の感想]

- ・今までシギ・チドリのことは詳しく知らなかったが、今日はじっくりと観察することができて良かった。
- ・シギの嘴の反り方餌の取り方がいろいろあるのがわかった。真直の方がどちらにも使えて一番良いように思った。
- ・ウミネコで茶色のものは違う種類と思っていたが、若鳥であることを今日知ることができた。
- ・カワセミを一番初めに見付けて嬉しかった。

○亀山水曜探鳥会（亀山市亀山公園）

- ・日 時：1996年9月11日（水）9:20～12:00 晴
- ・担 当：伊藤多紀子、楢原 葵
- ・参加者：18名 観察種：25種

テーマ「モズの高鳴き」。畦道を進むと電線、小木の天辺に止まり、高鳴きを「キイーキイーキイー」。♂♀の姿も見る。虫をくわえて飛ぶ、色々な行動が観察できた。会員よりスズメのカービングを提供していただきましたので、モズ、スズメの長さを参加者に手で触れていただきました。探鳥だけでなく鳥についての会話がはずみました。（伊藤）

[参加者の感想]

- ・沢山鳥の種類が見られてうれしい。
- ・ゴイサギの成鳥はよく見るが幼鳥は初めて。飾羽（冠羽）がないのね。
- ・亀山は住まいの近くに自然が残っているからいいね。

○多度峡探鳥会（桑名郡多度町多度）

- ・日 時：1996年9月15日（日）9:00～12:00 晴
- ・担 当：藤田克三
- ・参加者：12名 観察種：15種

朝からよく晴れ清々しい一日。もうそろそろサシバの渡りも始まり、カラ類も姿を見せはじめています。長良川の方ではカンムリカイツブリが三重県で初の繁殖が確認できたとかで、今後の繁殖状況を見てみたいものです。

[参加者の感想]

野鳥の方はあまり出てくれなかったが、トンボやツリフネソウなど草花を観察できたので良かったと思う。

○亀山1金探鳥会(亀山市椿世町)

・日時:1996年10月4日(金)9:00~12:15 晴

・担当:楢原 葵

・参加者:13名 観察種:26種

1 「ジョウビタキを探す」というテーマだったが、チット早すぎたようだ。

2 残したいフィールドだったが、開発により樹々は切られユンボがうなっている。不用な木は燃やされ煙が高く何本も上がっている。灰も我々のところまで降ってくる。

3 ノビタキ、アカゲラ、アリスイ、カケスの長い飛翔等を初めて見て喜んでもらえたが、ノビタキ以外は住む処を失った為ではないだろうか。

○桔梗ヶ丘の公園ため池めぐり(名張市桔梗ヶ丘)

・日時:1996年10月6日(日)10:00~12:00 晴

・担当:武田恵世、塗矢博一

・参加者:17名 観察種:18種

天気がとてもよく人数もほどほどでとてもスムーズに行事を実行できた。少し気温が高いため、池の方はカモ類が来ていなかった。(塗矢)

[参加者の感想]

住宅の中に森林があり池があり野鳥に最適だと思う。

○タカ渡り探鳥会(伊勢市やすらぎ公園)

・日時:1996年10月6日(日)8:00~14:00 晴

・担当:林 淳子、今村 禎、西村幹和・泉

・参加者:30名 観察種:22種

8時半頃からサシバの渡りが始まり、頭上に10羽から30羽余りのタカ柱も数回観察することができ、参加者から歓声が上がる。ピクィーという鳴声や、胸の縦じまや横じまの模様もはっきりと見られ、幼鳥・成鳥の判別の出来るものもあり、日に透ける羽の美しさに感動した一日でした。

反省一午後からは散漫になった。探鳥会は午前までとし、午後からは希望者のみにした方が良い。(林)

○神社の森と野鳥(伊勢市外宮勾玉池)

・日時:1996年10月12日(土)13:00~14:00 曇

・担当:杉浦邦彦、吉居瑞穂

・参加者:10名 観察種:15種

今日は伊勢の大祭。まだまだ自然観察より祭りの方が面白いようである。人間なものな!

幼年時代の自然との親しみが大切か……?(杉浦)

[参加者の感想]

・ゴイサギはいつも同じ場所で休憩している。いつも幼鳥であったが今日は成鳥。目が赤い。

・アオサギの飛翔(急降下の様子)に感動した。首が長い。ツルと間違はずだ。

○多度峡探鳥会(桑名郡多度町多度)

・日時:1996年10月13日(日)9:00~12:00 晴

・担当:藤田克三、近藤義孝

・参加者:4名 観察種:7種

前日の雨も上がり、本日はうそのような晴天。タカの渡りを観察してみようということで多度山頂に場所を移し、サシバ、ハチクマの渡りを見ました。

多度山はあまり数は出ないのですが、本日はサシバ、ハチクマ、ハイタカ、トビが計13羽見ることができました。また、メジロやカラ類のさえずりが帰りの道中聞かれました。(藤田)

○亀山水曜探鳥会(亀山市亀山公園)

・日時:1996年10月16日(水)9:20~12:00 晴

・担当:伊藤多紀子、楢原 葵

・参加者:21名 観察種:23種

今月のテーマ「旅鳥をさがそう」。旅鳥の説明。神社林で待つこと1時間、出ない。(前日の下見ではエゾビタキ、ノビタキが見られた)終了まぎわにキビタキを見ることができ、喉から腹にかけてとても美しかった。テーマの鳥が見られてほっとしました。(伊藤)

[参加者の感想]

・緑が多くて空気が澄んでいる。

・探鳥会にとってもよい環境。

○亀山1金探鳥会(亀山市椿世町)

・日時:1996年11月1日(金)9:00~11:00 曇後雨

・担当:楢原 葵

・参加者:1名 観察種:26種

1 時間直前まで雨のため参加者なし。止めようと思ったが、せっかく出て来たので中止にできなかった。

2 一人では何をしても早い。リュウノウギク、ノジギク、ヤクシソウ、シロヨメナ、ヨメナ、ノコンギク、リンドウ、イヌセンブリの他に春の花もさいている。



事務局より

☆火曜日の事務所での作業時間が変わりました。

旧 10:00~12:00⇒現在 13:00~15:00

急に休みになることがありますので、事務所へ来られる方は前もって木村 (Tel) までご連絡下さい。なお、学校の長期休暇 (春、夏、冬) の期間中は休みです。

☆現在、正会員、普通会員の方で、特別会員に変更を希望される方は三重県支部事務局へご連絡下さい。支部事務局を通じて特別会員になっていただくと、会費の一部が支部へ還元されます。

☆今年の冬は冬鳥の渡来も少し早いようで、去年の冬のように極端に数が少ないということもなさそうです。しかし、熱帯雨林に代わって寒帯林の大規模な伐採が進められつつあります。伐採された木材の半分が輸出され、その90%が日本向だということです。単に、冬鳥がやって来たと、喜んでばかりはいられないようです。
(木村京子)

募 集

あなたも会の運営に参加しませんか？

三重県支部は総会で選出された理事が会の運営をボランティアで行っています。探鳥会や会報づくり、保護活動のとりくみなどを年3回の理事会で話し合い、支部活動を進めています。

1996年4月からの来年度は理事の改選期にあたっています。そこで、理事に立候補する方を募っています。任期は2年です。

支部の活動にあなたの力を貸して下さいませんか。

詳細は事務局までおたずね下さい。(電話 木村京子)

なお、活動は無報酬ですのでご了承下さい。

編集後記

この秋も鳥に関する多くのニュースが報じられました。最新のものは「秋の珍客ヘラサギ飛来」(10月30日付中日新聞)で、発見者の多田さんは今号の野鳥情報にもご投稿いただきました。9月にはカムリカイツブリの県下初の繁殖が確認され、これは高さんの可愛い絵となって表紙を飾っています。◆お二人はじめ、投稿いただいた皆さんに心から感謝します。◆今号は少し原稿が不足ぎみでしたので、思い切って減ページとさせていただきます。申し訳ありませんがご了承の程お願い申し上げます。◆次号には沢山の原稿をお寄せいただきますようお願いいたします。(せ)

お 願 い

1997年2月22日の鼓ヶ岳土曜探鳥会は事前申込制としますので必ず担当の世古口有司までお申し込み下さい。

しろとり第15号

1996年11月発行

表紙絵 高 和義 題字 濱田 稔

編 集 世古口有司

発行者 財団法人日本野鳥の会三重県支部

〒516 伊勢市宇治浦田2丁目9-4 杉浦邦彦方

TEL

印 刷 館 印刷 〒510-13 三重郡菰野町田口1903-3